

延沢銀山

銀山温泉について最も知られているのは、絵のように美しい温泉地だということですが、その歴史は江戸時代(1603～1867 年)初期に始まります。当時、この辺りは、日本最大級の延沢銀山（文字通り「銀鉱」）として栄えていました。1600 年代なかばの最盛期の銀山には、約 15,000 人が暮らす地域が存在しました。多くの人は鉱業に従事しており、鉱業は幕府が直接管理していました。

鉱業の技術は原始的であり、採掘のほとんどは手作業で行われていました。鉱夫たちは「焼き掘り」（文字通り焼いて掘る）と呼ばれる革新的な技法を活用して、作業効率を高めました。木炭を使って岩を熱し、岩が熱くなったら冷たい水をかけていたのです。こうすると、岩はもろく砕きやすくなり、中の銀鉱石が掘り出しやすくなりました。

延沢銀山の隆盛は長続きせず、1689 年までに銀鉱は閉鎖されました。かつては 53 本の坑道がありましたが、現在公開されているのはひとつだけです。この長さ 20 メートルの坑道は、銀山温泉の奥の山の中に位置し、白銀公園を通る散策路沿いにあります。この坑道は、訪れる人たちに、数百年前の鉱夫の暮らしがどんなものだったかを知る機会を与えてくれます。この坑道は一年中涼しく、今でも壁や床の黒ずんだ部分が「焼き掘り」という採掘技術の証拠として残されています。